

会議の名称	平成29年度第2回 伊予市健康づくり・食育推進協議会
開催年月日	平成29年11月8日(水)
開始・終了時刻	午後1時30分から午後3時30分
開催場所	伊予市保健センター
会長氏名	斉藤 功
副会長氏名	稲田 貫
出席委員(者)氏名	斉藤功、稲田貫、荒木周一郎、植田真知、西田孝博、本田恵津子、徳田徹、川口和男、浅山貢、関上知美、小畑昇子、吉澤三千久、平野孝志、向井早苗
欠席委員(者)氏名	佐々木 典彦、藤井祐一郎
傍聴者氏名	傍聴者なし
説明者の職氏名	大西課長、篠原課長補佐
事務局職員職氏名	大西課長、篠原課長補佐、武智課長補佐、大谷課長補佐、谷本係長、山内係長、戸田係長、松浦主任歯科衛生士、小倉主査
会議次第	開会 1 会長あいさつ 2 議事 (1) 健康づくり・食育推進計画素案について (2) 意見交換 3 その他 閉会
配布資料等	○会次第 ○委員名簿 ○資料 1 伊予市健康づくり・食育推進計画について ○資料 2 協議会資料

会議録

発言者	会議の概要
事務局	<p>お待たせいたしました。委員さんは2人まだお見えになられてないんですが、定刻になりましたので、ただいまより第2回伊予市健康づくり・食育推進協議会を開催させていただきます。</p> <p>皆様には御多忙の中、御出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>本日、進行役を務めさせていただきます、私、健康増進課長の西大でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>本協議会では、伊予市審議会等の委員の公募並びに会議及び会議録の公開に関する規則第14条の規定に基づきまして、会議の傍聴を認めております。事前に市ホームページでお知らせいたしましたが、傍聴希望はありませんでしたので、御報告をいたします。また、同規則に基づく会議録を作成するため会議中の発言を録音させていただきますので、マイクでの御発言に御協力いただきますようお願い申し上げます。</p> <p>本日の配付資料について、確認をさせていただきます。</p> <p>まず会次第、続いて委員名簿、配席図、右肩上に資料1とあります2枚の資料、それと差しかえ文書になるのですが左肩にホチキスどめをとりまして目次から始まっている書類です。それと小畑先生から事前にいただきました資料、それと別紙1、2の資料でございます。また、計画素案につきましては事前に郵送させていただいておりますが、本日皆さんお持ちいただきましたでしょうか。大丈夫ですかね。今言った資料も大丈夫でしょうか。</p> <p>はい、ありがとうございます。</p> <p>本日の委員さんの出席につきましては、2枚目にあります委員名簿のとおりでございます。本会の欠席につきましては、9番の藤井委員さんより欠席という御連絡をいただいております。また、本日は中予保健所健康増進課の植田係長に御出席をさせていただいておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、開会に当たりまして斉藤会長より御挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>皆さん、こんにちは。今日はお忙しいところを本協議会にお集まりいただきまして、どうもありがとうございます。前回8月末に第1回目の本協議会を開いたところですけども、あれから2カ月ちょっとたっております。前回は基本的な案について市から御提示いただきまして、この2カ月間で大体内容がまとまりました。今日は委員の皆様方からいろいろ御意見いただいて、少し手直しをする段階になっています。平成29年度こういう計画づくり計画は色々市町村でやっております、県も含めて大慌てで平成30年度に向け取り組んでいるところです。計画というのは1度つくると変更できないものでございます。この際今回この協議会を通じてしっかりと今後6年間の伊予市の健康づくり計画をつくっていきたいと考えているところです。今日は、色々な関係団体等</p>

事務局	<p>代表の方にお集まりいただきましたので、それぞれの立場から御活発に協議していただければと思います。今日はどうぞよろしく願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、この後の議事進行につきましては協議会条例第6条の規定に基づきまして、斉藤会長に議長をお願いいたしたいと存じます。斉藤会長、よろしく願いいたします。</p>
会長	<p>はい、それでは御指名ですので、これからの議事に関しては私のほうで司会のほうをさせていただきます。</p> <p>今日、次第に沿って議事のほうをしていきます。</p> <p>2番目の議事の(1)健康づくり・食育推進計画素案についてということになります。</p> <p>これに関して、事務局のほうから説明していただいて、その後協議事項、意見交換、そういうふうに移っていきたいと思います。</p> <p>それでは、事務局のほうから健康づくり・食育推進計画素案について御説明をお願いします。</p>
事務局	<p>はい、谷本と申します。本日はよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、私のほうから計画素案について説明をさせていただきます。</p> <p>委員の皆様には事前にお目通しをいただいておりますので、簡単ではございますが説明をさせていただきたいと思います。</p> <p>まずは、計画素案の策定に当たってでございますが、第1回の協議会で委員の皆様からいただきました御意見や中予保健所の御指導をもとに課内で作業部会を何度も重ねまして、また計画に関係する各課にも見てもらいまして今回の素案を作成しております。</p> <p>素案の1ページ、2ページ目をお開きください。</p> <p>こちらは差しかえのほうの資料があります。申しわけございませんが、今日お配りしている差しかえの分から1ページ、2ページ目をページ番号が振ってあるものを御用意いただけたらと思います。その後そのまま1ページ、2ページ目をお開きしていただけたらと思います。</p> <p>この計画書につきましては、第2次伊予市健康づくり計画の中間評価と第1次伊予市食育推進計画の最終評価の機会を捉えまして相関関係にあります健康と食育の分野を1冊の計画書にまとめて作成をしまして伊予市のさらなる健康づくり、食育を推進していくものでございます。</p> <p>まずは、私のほうから第2次伊予市健康づくり計画について説明をいたします。</p> <p>素案の9ページ目から52ページにかけてが健康づくり計画になります。</p> <p>素案の11ページ、12ページ目をお開きください。</p> <p>また、このページについても申しわけございませんが、差しかえのほうがありますので、本日お配りしております差しかえの分から11、12というページ</p>

番号が振ってあります差しかえの分をお手元に御用意いただきまして、そちらのほうをごらんいただけたらと思います。

この表は国が示す健康日本 21 第 2 次計画の基本的な方向と、あと分野別項目に沿って伊予市の目標指標を整理しております。

目指す姿は一番上に書いておりますけれども、子供から高齢者までの全ての市民が住みなれた地域とともに支え合い健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現、いきいき健活増やそう笑顔、伊予市民みんなでつくる健康なまちを目指しております。また、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を大目標に掲げておりまして、健康づくりを推進していきます。

11 ページ目の左の縦軸には、大目標を達成するための主要な 4 つの方向性、柱になるものとその分野別の項目を示しております。その分野別項目に沿いまして、目標指標を横軸のライフステージを目安に整理しております。

ここで伊予市健康づくり計画の特徴としましては、縦軸の分野別項目のところを見てみてください。

国の設定にはないのですが、伊予市の健康課題として長年取り組んでおります肝疾患を追加設定をし、独自性を持たせております。また、目標指標につきましては中間評価において主に悪化傾向にある指標を黒四角で示し、悪化していたわけではないんですが国や県と比べて引き続き重点的に取り組む指標というのを黒三角で示しております。また、中でも特に優先的に取り組む重点課題を赤矢印で 4 カ所あるかと思うんですが、お示しをしております。一覧表を見たときに、今後 6 年間の取り組みにおいて特に充実強化すべきところが一目で見てわかるように工夫をしてみました。また、今回の中間評価で評価困難などの理由で変更した指標については青字にしております。

では、赤矢印のところに御注目ください。

特に伊予市が優先的に取り組む課題について、まずは市実施のがん検診、特定健診、肝炎ウイルス検診の受診率向上です。受診率が 2 割から 3 割と低く、特に若い世代の受診率は非常に低くなっております。受診者が少ない現状においても、メタボや LDL 悪玉コレステロールの指標の悪化傾向が見られました。また、1 人当たりの医療費は国や県よりも高いという状況もありますので、未受診者の中に潜在的な重傷者が多くいるのではないかと推測されます。より予防効果の高い若い世代から検診を受けることを定着化し、将来的な重症化を予防するためにも、この未受診者対策は伊予市の大きな課題と言えます。

これまでの未受診者対策としましては、広報や健康カレンダー、各保健事業を通じての周知はもちろんなのですが、未受診者対象者の名簿管理に基づきまして、はがきや電話などによる個別の受診勧奨や再勧奨に取り組んだり 2 年連続未受診者に絞って受診勧奨の強化を図ったり健康づくりの会などの地区組織活動や医師会、歯科医師会の御協力による受診勧奨に取り組んだりしております。また、土日検診やレディース検診、今年度からは 30 代の女性の乳エコ

一検査を導入するなど工夫を加えながら受けやすい体制づくりにも努めているところです。また同時に、受診した方が続けて毎年受診につながるように、検診後の保健指導や栄養指導の充実にも重点的に取り組んでおります。

11 ページの一覧表のほうを見てください。

栄養、食生活、身体活動、運動などの生活習慣のところ、個人の健康づくりのところに当たるところに赤い矢印を入れております。伊予市の死亡の原因では、心臓病が多いという状況が見えています。

この栄養や運動、飲酒、喫煙のところの指標を見てください。

黒四角や黒三角が目立っているのがわかるかと思います。心疾患はこの栄養や運動、飲酒、喫煙といった生活習慣が深く関係していると言われております。また、この個人の生活習慣につきましても、ほかの分野の目標項目の改善の推進にも影響してきます。健康寿命の延伸の目標達成にはお一人お一人の健康づくり、生活習慣の取り組みは必要不可欠となってきます。今後6年間の後期計画では、この前期計画に引き続きまして生活習慣病とその原因である生活習慣の改善を中心としました1次予防に重点を置くとともに、合併症の発症や病状悪化などの重症化予防を重視し取り組みたいと思います。

各目標指標につきましても、13 ページからの第3章の4で著述をしてきております。

この一覧表の右側には、参照ページを入れて確認しやすく工夫もしておりますので、是非またあわせて御確認いただけたらと思います。

続きまして、13 ページ、14 ページをごらんください。

こちらのほうも申しわけないのですが、13 ページにつきましても差しかえがありますので、本日配りました差しかえの資料のほうから13 ページのほうをとっていただいて、ごらんいただけたらと思います。

この13 ページから52 ページにかけて、健康づくり計画の各指標について詳細が書いてあります。全て各指標につきましても、このページにあるようなレイアウトでまとめまして中間評価の状況や課題、取り組み、情報などを共有できるようにしております。

では、13 ページのほうの指標についてですけれども、差しかえのほうをごらんください。

自分が健康であると自覚している期間の平均についてですが、前回の協議会で御意見をいただきまして見直してみたところ、国の示す健康寿命の算定の考え方とは異なっておりまして、算出には無理があるということがわかりましたので、今回は評価困難としまして、かわりに算出可能な介護情報に基づく日常生活動作が自立している期間の平均に指標を変更させていただきます。このように指標の変更や目標値の変更については、青字で記入をさせていただきます。

お手元の素案15 ページ以降につきましても、青字で変更の記載がまだでき

ておりませんが、お手元に配付しました資料で別紙1、別紙2という資料があると思うので、ごらんいただけたらと思います。

その別紙1と別紙2のほうの資料で変更に係る一覧をまとめておりますので、また御確認いただけたらと思います。そのように変更の前後がわかるように素案を修正したいと思っておりますので、15 ページ以降については御了承いただけたらと思います。

素案の23 ページをお開きください。

このページも差しかえがありますので、素案のほうは23、24 ページを開いたまま、差しかえの23 ページも御準備いただけたらと思います。

この肝疾患のところのページに入ってまいります、前回肝疾患につきましても御意見をいただいたところでございます。肝炎ウイルス検診の受診者数の推移について掲載をしております。策定時と比べますと増加をしているんですけれども、平成27年からは減少傾向が見られております。また、国や県と比べてみますと受診率は高いということがうかがえますので、伊予市民の方の肝炎ウイルス検査に対する関心の高さというのもうかがい知れます。

素案の24 ページのほうをごらんください。

図1では、受診者の陽性率というのがグラフで出ささせていただいております。受診者の陽性率というのは、高いということがわかるかと思っております。

次に、25 ページを開いてください。

こちらのほうも差しかえのほうがありますので、差しかえのほうを25 ページにつきましてはごらんいただけたらと思います。

図4で肝がんの死亡数を見ていきますが、肝がんの死亡数は減少傾向にあるようです。伊予市では平成9年ごろから対象者のデータを管理しまして、早くから肝炎対策に力を入れて取り組んできたこと、また医療の進歩が大きく影響していることなどが死亡数の減少については考えられます。これまで長年の取り組みの成果ではないかと評価しております。

しかしながら、図5のところを見てください。まだまだたくさんの未受診者がいるということも見えてきております。昨年度につきましては、協会けんぽのホームページ上に伊予市の肝臓病の相談や肝臓病教室について掲載をさせていただいたり、新薬の製薬会社に啓発チラシを作成していただいで地域のレディ薬局に設置させていただいたり、市では把握できない職域との連携なども視野に入れた取り組みというのもしているところでございます。今後も引き続きまして、肝炎対策については伊予市の重大な健康課題として取り組んでまいりたいと思っております。

26 ページには、その取り組みや情報としてのコラムを掲載しております。

このように27 ページ以降の各分野の項目におきましても、取り組みについては前期計画の取り組みを継承しつつ、特に評価する取り組みを二重丸、新たに追加した取り組みには下線を入れてお示しをして今後6年間の重点的に取

事務局

り組むべき内容をわかりやすくしております。

以上が健康づくり計画中間評価後期計画についての説明になります。

健康増進課の山内です。

続いて、第2次伊予市食育推進計画について説明いたします。

市では食に関する考え方を育て健全な食生活を実現するため、平成23年度から平成29年度までを期間とした食育推進計画を推進してきました。今回引き続き食育を推進していくため、第2次計画を策定しています。

計画案の冊子の53ページをごらんください。

今日配付した差しかえの資料にも53ページがございますので、差しかえの資料も53ページを開いてください。

基本理念は第1次計画から引き続いて同じテーマで、食で育み、愛を奏でる、ふるさと伊予市をテーマとしています。美しい海、緑豊かな山々、歴史ある町並みなど多くの自然や文化に恵まれた心豊かな人情と豊富な地場産品のある伊予市において、生涯にわたり健全な心身を培いながら健やかな食生活を実践する力を身につけることを基本理念としています。

54ページの第1次計画の目標の達成状況をごらんください。

計画を策定したときの平成22年度の割合と今年度調査した現状値を載せています。現状値がどのくらい目標に近づいたかを見てみると、野菜料理を食べる人の割合や歯磨きをする人の割合は多くなっており改善しています。朝食を食べる人の割合などは減ってきており、悪くなっております。食育の推進は個人だけで取り組むのではなく、さまざまな食育の関係機関や団体が連携して地域全体で進めていく必要があります。

55ページ以降に、食育に関するさまざまな課題についての具体的な取り組みを載せています。

食育の基本目標は3つあります。栄養食生活、楽しい食事の実践と食文化、地産地消の推進、この3項目を食育の基本目標としています。栄養食生活については、健康づくり計画と共通の基本目標となっております。

栄養食生活については、健康づくり計画の第3章、41ページに掲載しています。それぞれの目標にどのように取り組むかを一人一人の取り組み、地域の取り組み、学校、行政における取り組みという枠組みで市民と行政それぞれの立場での取り組みを示しています。今回新しく評価指標と目標に追加したのは、朝食または夕食を家族と一緒に食べる共食の回数を増やすという目標と地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを継承し伝えている人の割合でございます。今回新たに目標に加えた理由ですが、家族が食卓を囲んでともに食事をとりながらコミュニケーションを図ることは食育の原点であり、共食を通じて食の楽しさを感じ食や生活に関する基礎を習得する機会になっていきます。そのため、仕事と生活の調和であるワーク・ライフ・バランスの推進にも配慮して、家族と一緒に食べる回数を増やすことを目標に入れまし

事務局

た。また、近年核家族化や食の多様化に伴って、日本の食文化の特色が徐々に失われつつあります。和食がユネスコの無形文化遺産に登録され、和食を継承していくことが望まれています。そのため、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し伝えている人の割合を目標といたしました。市には地域の食材を生かした、いもたきや鯛めし、栗寿司などの郷土料理がございます。そのほかにも箸使いや食べ方、作法を受け継ぎ地域や次世代へ伝えていき日本の食文化を守るための目標といたしました。

59 ページをごらんください。

こちらはライフステージに応じた食育の推進として、各年代や年齢で特に取り組みたいことについて表にしています。

以上で食育推進計画の内容について説明を終わります。

引き続き、篠原が委員さんからの提案書について説明させていただいたと思います。

今回事前に委員の皆様には計画の素案をお送りさせていただき、4人の委員さんから提案書の提出がございました。

資料1が、提案書を集約したものでございます。御準備ください。

本協議会で協議や確認が必要なものを抜粋させていただきました。誤字や脱字等の御指摘につきましては、事務局で訂正いたしますので省かせていただいております。

それでは、各委員さんからの提案書について回答をさせていただきます。途中差し替え文書を入れながら説明いたしますので、よろしくお願ひします。

まず、伊予市食生活改善推進協議会会長の本田委員さんからいただいた提案書でございます。

素案の36ページをお開きください。あわせて差し替えがございますので、差し替えのほうも36ページをお開きいただいたと思います。

これについて一人一人の取り組みのところに高年期がない、次世代の健康には高年期も必要ではないかという御意見をいただきました。こちらについては一人一人の取り組みの壮年期の下に中年期、高年期（45歳以上）の取り組みを入れております。また、BMIの表記について御指摘を受けまして、これについては41ページの表記に合わせBMI = 体重 ÷ 身長 ÷ 身長 という表記にさせていただきます。

続きまして、38ページの素案をお開きください。

こちらについて一人一人の取り組みでこの欄は期別でなく全期に当てはまるのではないかという御意見をいただきまして、こちら事務局で協議いたしまして、こちらについては全期にわたる取り組みとすることがいいのではないかとということで年代の記載を削除いたしました。

続きまして、52ページをお開きください。

地域の取り組みで保育所、幼稚園、学校は行政の取り組みではないかという

御指摘でしたが、こちらのほうも差しかえ文書がございます。差しかえのほうの 52 ページもお開きいただいたらと思います。

地域の取り組み、行政の取り組みについて赤字のように訂正をさせていただいております。

続きまして、冊子全体を通しての御意見のようですが、一人一人の取り組みについて年代別は要らないのではないかと、全年代に当てはまるという御意見もいただきました。これについて事務局のほうで協議した結果、年代別に特に積極的に取り組んでいただくとよいと思われることについては、やはり具体的に年代別の取り組みを記載させていただきたいということで、そのままにさせていただきます。

あともう一点、これも全体を通しての御意見で丸と二重丸、下線の意味はということで、先ほど谷本からも説明させていただいたかとは思いますが、これについては差しかえページがございます。差しかえの 10 ページをごらんください。

御指摘のとおり、それぞれの意味がわかるよう 10 ページの下のところに説明文を追加いたしました。赤字で記入しております。二重丸が共感すべき取り組み、下線のついたところが、新たに追加した取り組みということをあらわさせていただきます。

本田委員さんについては以上でございます。

続きまして、伊予市青年農業協議会代表の徳田委員さんから御質問いただいた件について回答させていただきます。

53 ページ、第 4 章、第 2 次伊予市食育推進計画に関係することなのですが、小・中学校の給食について提案させていただきますということで、小学校のほうでは食べ残しが多いようです。給食のメニューと栄養についての説明や子供たちの意見や要望を聞くディスカッションの場があれば食べ残しを減らすことが少しでもできていくのではないのでしょうかという、御提案をいただきまして事務局で協議した結果、学校給食のことにしましては委員さんの中に栄養教諭さんがいらっしゃるの御意見を伺いたいと思うのですけれども、会長さんよろしいでしょうか。

会長

はい。それでは、今日は小畑委員さんが来ておられますので、ちょっとこの辺について御意見伺いたいんですけども、よろしいでしょうか。

小畑委員

はい。では、失礼します。

別の分で、カラーで印刷していただいております学校給食への地場産物活用の様子って書いてある給食の写真が載った資料を御用意させていただきました。委員さんの御質問というか、御意見のほうもあるんですけども、まずは学校給食の現状をお知らせするものとして、こういうものを作成させていただきました。

目標にもあるように、地場産物を給食に取り入れるということで 5 月だった

ら伊予市の特産品であるソラマメを使ったものを入れております。これは全部の小学校で手分けをしまして、2日間にわたってソラマメ御飯を出しました。それぞれの学校の1年生の授業として、ソラマメをむいてもらい当日食べる時には1年生が授業でむいたソラマメですよという放送も入れて、なかなかソラマメ御飯とかにおいが気になって嫌われたりするんですけども、こういうことの取り組みによって結構苦手なソラマメ御飯を皆さん頑張って食べてくれています。

また、伊予市では伊予長ナスというのがありまして、ナスも特産品なので7月のメニューに麻婆茄子などを取り入れています。

9月には、これは佐礼谷のほうでトマトがたくさんとれるんですけども、そのトマトをピューレにしたものをうどんに練り込んだ独特の伊予市の献立で取り入れているものなんですけど、トマトうどんというものを冷やしうどんとして提供しています。

また、中山のクリも特産品ですので、10月には行事食としてクリちらしをし、そのところに伊予國みそ汁というのがあるんですけど、この伊予國みそ汁に取り組んで今年で3年目になります。伊予市の今の旬にとれる食材を入れたみそ汁ということで、毎月伊予國みそ汁を出しています。レンコンなんかもみそ汁の具に入れたりとか、もう少し12月ぐらいになったらカブを入れたりとか、その時々のもを入れていくんですけども、6年生にリクエスト給食献立を考えてもらうという授業があるんですけど、伊予市の地場産物って何かなかかって質問すると、必ず伊予國みそ汁ということが子供たちにインプットされていて、3年目になりましたが、そういう伊予國みそ汁ということで伊予市の食材に関心を持ってもらいつつあるかなと思っております。

平成29年度に使用している伊予市産の食材をそこ4月から11月までまとめております。ここに抜けていたんですけど、豆腐も伊予市産の大豆を使ったものを使用しておるので、豆腐もこの伊予市産食材かなと、それちょっと抜けていたなと思ってます。

続きまして、裏面に入らせていただきます。

グラフなんですけど、地場産物の活用率というところで、今回の第3次のほうの目標も前回の第2次の目標も伊予市産を30%という目標になっております。県の目標は愛媛県産品、市内産も含めた県内産のものの使用率が35%ということになっていたんですけども、なかなか伊予市産を伊予市の目標の30%というのは難しくって、センターになりましたのは28年9月からなんですけれども、入札方式で伊予市産のものを優先した購入しているんですけども、なかなか物が不作だったりとかということもありまして、今年6月やっと15%を維持できているような状況です。15%と県内産の21.2%合わせて36%強というような現状です。

献立表もちょっと見にくいんですけども、伊予市産のものを使ったときに

は太字でこれ伊予市産のものですよというふうな取り組みの仕方をしてい
ます。日々どんな給食が出ているのかなという興味とかがございましたら、伊予
市のホームページとかに載せております。また、郡中小学校においては、毎日
の写真を撮ってホームページのほうにも掲載をさせてもらっています。

長々と申しましたが、食べ残しが多いかなというところで、食べ残しが多い
ということになると私の在籍している学校では、郡中小学校なんですけれど
も、低学年がどうしてもセンターで決まった時間に返さないといけないので、
食べ残しというふうになるんですけれども、もう3、4年生、昨日4年生の先
生ともお話ししたりとか高学年先生とかともお話ししたんですけど、ほとんど
残っていないということで、特に中山、双海の方面の学校は頑張ってく
れています。本校はちょっと大きいので、1年生6クラスあります。そうい
うところで、やっぱりなかなかまだ今のところ完食にならないところもあるん
ですが、2年生でも完食しているクラスもあります。

こういうところはやっぱり学校だけで頑張れるところでもないかなとい
うところもありまして、明日就学時健康診断があるんですが、そういうときに
うちの子全く野菜が食べれないんですという御相談を栄養相談のコーナーで受
けたりとかもありますので、御家庭での御協力というか、そういうところ、ま
た昔と違って無理やり食べさせると先般報道とかにもありましたが、無理やり
食べさせられたとか、残って食べさせられたりとか、今そういうところで先生
方も工夫していただいて、一口でも食べようということで子供たちが徐々にで
も食べられるように給食指導のほうをしていただいております。私たち栄養教
諭も3名おりますので、先ほどのソラマメの授業とか今は6年生の献立リクエ
スト給食を考えるとということでも出向いて行って、子供たちのいろんなアイ
デアを給食に取り入れるというようなところを頑張っているところ
ですので、徐々にそういうところで取り組みをしていけばいいなというふうに頑
張っております。

地場産物のことについても、何かお助けいただけることがあれば助けていた
だきたいなど、東温市は行政と関連したさくら市場が東温市内産をおさめて今
松前町も頑張っております、松前町の元気人村からおさめてもらっている
というようなところがありますので、まずは組織づくりができないとなかなか確
保というのが難しいなというところで学校給食としては悩んでおるとい
う現状もお伝えして、またこういうところでお力をかりればいいのかと思
い、今日このような資料を用意させていただきました。長い時間とってすみません。

ちょっと質問いいですか。

はい、川口委員。

先生に聞きたいんですけども、最後のページの上の地場産物の活用率、これ
はカロリーベースの%ということよろしいんでしょうか。

いえ、食品数です。

川口委員
会長
川口委員
小畑委員

川口委員 小畑委員	<p>数ですか。</p> <p>数です。指定されている数で、例えば今日 17 品目使ったうちの何個が、例えばおかず両方にニンジンが入って出すので 1 と数えるんですけども、そのうちの何種類とか何個かということです。カロリーベースでないし量でもないんで、はい、そのようにこれはもう農家が指定した調べ方なので、全国同じような形になっています。</p>
川口委員 会長	<p>わかりました。</p> <p>はい、よろしいでしょうか。また、協議に関しては後から時間がありますので、そのときをお願いします。</p>
事務局	<p>引き続き、事務局よりお願いします。</p> <p>そうしましたら、続きまして公募委員の吉澤委員さんのほうの提案書に移りたいと思います。</p> <p>素案の 4 ページをお開きください。</p> <p>ここの 4 行目のところですが、高齢者の人口が 20 年間で 1.4 倍に増加とありますが、増加したわけではなく常態的なことだという御意見をいただきまして、事務局としてはこちらのほうについては年齢区分ごとの実数を見たときの増加という表現で記載させていただいたということで、数に対しての 1.4 倍ということで表記させていただいております。</p> <p>続きまして、素案の 7 ページをお開きください。</p> <p>こちら 2 の健康に関する概況の⑤のところですが、1 人当たりの国保医療費が高いとあり、65 歳から 74 歳の国保の割合が比較的多いとあり、医療費総額を 9,000 万円節約とあると、いかにも高齢者が悪玉のように感じてしましますが、医療費が多い原因は病気の質なのか量なのかほかなのか、考えられる要因があれば記述してもよいのではないかと御意見いただきました。</p> <p>それに対して、伊予市は高齢化率が国や県と比べて高いため国保の被保険者数の割合も多くなっております。医療費の状況については、8 ページですね、表 1 のオを見たときに高齢者だけでなく被保険者全体の医療費について見たものでございます。検診データをもとに、予防可能な生活習慣病への取り組みが重要と考えております。</p> <p>続きまして、20 ページについての御指摘なんですけど、素案の 8 ページの表で死亡の多いのは心臓病、すごくよく見ていただいているんですけど、心臓病が国や県よりも多いということで心疾患の取り組みを少し強調してもよいのではないかと御意見をいただいております。</p> <p>それに対して、20 ページの取り組みについては心臓病を初めとする循環器疾患についての取り組みでございます。心臓病については循環器疾患に含まれることから、20 ページの一番下の欄に循環器疾患とはという注釈を入れることといたします。注釈の内容としてなんですけれども、循環器疾患とは重い心臓や血管に由来する疾患のことという文面を入れたいと思っております。</p>

続きまして、33 ページをお開きください。

個人情報保護法以後、地域住民同士の生活実態がわかりにくくなっている、名案はないものではないかというような御質問をいただいております。

これについては、33 ページだけでなく素案の 39 ページ、40 ページについても関連してくる課題でございまして、地域での活動や地域での見守りなど地域力を高めることが重要と考えております。また、健康づくりや食育だけの問題ではなく、災害時の対応にも重要であります。伊予市総合計画の中でも、みずからの地域はみずからの手で築き上げるという意味と責任を持ち市民みずからが考え、ともに助け合い行動するまちづくりを推進することとなっております。行政といたしましては、さまざまな機会に地域づくりの支援をしていきたいと考えております。

続いて、56 ページ、伊予市の食材を使った病気別の健康レシピなどで食と健康に関心が向くような取り組みも必要ではないかという御質問なんですけれども、事務局としては 56 ページでの御意見なんですけれども、差しかえ文書のほうの 42 ページのほうにそれらの取り組みについて盛り込みたいと思っております。差しかえの 42 ページをごらんください。

現在、市の健康教室や食生活改善推進員が行う講習会の中で病気別の健康食レシピの配布などを行っております。今後も、引き続きそういった取り組みが必要だと考えております。42 ページのところに、赤字の部分を追加させていただきました。

続きまして、素案の 57 ページをごらんください。

まだ食の安全より値段に敏感な市民が多いと思う、農産物や海産物などのわけあり商品の販売に力を入れることはできないものか、そこに安全・安心を持ち込めないものではないかという御意見をいただいております。それについてなんです、生産者が安全・安心なものをつくるため努力されていることと思います。消費者側の意識も重要と考えております。この点については、委員さんの中に伊予市青年農業者協議会の委員さんもいらっしゃるので生産者としての御意見を伺いたいと思うのですけれども、会長さんどうでしょうか。

はい、じゃ徳田委員さん、よろしくお願ひします。

伊予市青年農業者協議会の徳田です。

食の安全より値段に敏感な市民の方が多いいいことですが、私と妻との 2 人で農業をしております、私どもがやっているのは無農薬、除草剤を一切使わない、あと化学肥料も使わないという農業をしております。産直さんとかスーパーさんとかに商品を出させていただいたりしているんですが、まだといいますか、8 割、9 割ぐらいのお客様はやっぱ無農薬であろうがなかろうが安い商品を買われるという印象を持っております。無農薬ということを知ると物すごく喜ばれる、特に小さいお子様がいらっしゃる御家庭なんかは「本当に探してたんです」とか、じゃ、こっちにしますとか、お声がけさせていただくとすごく

会長
徳田委員

	<p>喜んでくださったり、あと私どものフェイスブックとか見ていただいた、そういう小さなお子様がいる全く知らない方とかからダイレクトに連絡が来て、うちの野菜を是非買わせていただきたいとかというありがたいことを言っていたくこともあって、本当に求められている方というのはもう完全無農薬、うちのようなやり方の農作物とかお米とかというのはものすごく値段は高くても、求めていただけるんですが、一般的な、お客様の流れを見ると同じ 100 円、120 円、20 円ぐらいの差だったら 120 円の無農薬よりも 100 円のものを買うという印象が見受けられます。もっともっと無農薬というもののおいしさとか、食べていただいたお客様にお話を聞くと、ものすごく味が濃いか、全くいつも食べてるものとは別物というありがたいお声をいただいたりするので、無農薬、安全な食品のよさとか大切さというのをもっと発信していく手段があれば、よりいい社会になっていくのではないかと常日ごろ思っております。</p>
<p>会長</p>	<p>すみません、何か取りとめもないお話になってしまって、以上です。</p> <p>はい、どうもありがとうございました。なかなか難しいところだと思いますけれども、またこれに関しても後ほど何かありましたら御協議願いたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>では、続けてお願いします。</p> <p>続きまして公募委員の平野委員さんからいただいた御質問に回答したいと思います。</p> <p>2次健康づくり後期の計画案はいつ提示されますかとの御質問を受けております。</p> <p>これにつきましては、まず素案の2ページをごらんください。</p> <p>今年度が第2次健康づくり計画の中間評価となっております、今回お配りした素案の第3章が第2次伊予市健康づくり計画の後期計画に当たります。</p> <p>差しかえの目次のところを開いて、一番最初を開いていただいたらと思います。</p> <p>この目次のところに第3章第2次伊予市健康づくり計画中間評価と表記しておりましたので、少し計画という感じではなかったもので、この中間評価という文言を削除したいと思います。計画の構成としては、第3章が第2次伊予市健康づくり計画、第4章が第2次伊予市食育推進計画という構成になっておりまして、この2つの計画が含まれているという構成です。</p> <p>続きまして、54ページについて御意見をいただいております。</p> <p>54ページの評価のところですが、評価のDはBに、BはAに上げるための具体的な取り組みにしたほうがよいのではありませんかという御意見をいただいております。</p> <p>これにつきましては、54ページに示しております目標の達成状況は第1次食育推進計画策定時、平成23年のときの目標に対してどれくらい達成できた</p>

かをあらわしたものでございます。その達成状況に対して、これからどのように伊予市が取り組みを進めていくかを 55 ページ横の、例えば 56 ページだったら今後の方向性及び取り組み、こちらのほうで具体的な取り組みをあらわしているようになっております。

続きまして、目標は 30 年度から年度ごとにスケジュールを立てたほうが結果がわかりやすくなりませんかという御意見をいただいております。

事務局といたしましては、この伊予市健康づくり食育推進計画は平成 30 年度から平成 35 年度までの 6 年間の計画でございます。

素案の 60 ページをお開きください。

計画策定後は本協議会を毎年開催し、進捗状況を報告し課題や取り組みなどを協議し事業の実施方法や内容を見直しながら計画の推進を図る予定でございます。推進体制図のように市民、関係団体、行政がそれぞれの役割を担い協働して健康づくり、食育を推進できるよう本協議会で御意見を賜りたいと考えております。また、目標の達成状況の確認については、健康や食育に関する市民アンケート調査を行った上で平成 35 年度に行う予定でございます。

委員さんからの提案書についての回答は以上ですが、事務局より少し訂正などがございますので、補足して説明させていただきます。

差しかえの 1、2 ページをごらんください。

目次を広げたところに A 3 判の 1 ページのところについて赤字で訂正していますが、少し文書の差しかえ、入れかえを行い説明文のほうを追加したところがございますので、このように訂正をさせていただきます。

2 ページについては、計画の表の下の文言のところですね。特定健診と実施計画の第 2 期計画を、内包というところを含んでいたという表記に変更しております。

素案の 43 ページをお開きください。それとあわせて、差しかえ文書のほうにも 43 ページがありますので、両方を開いていただいたらと思います。

こちらについては参考として、この差しかえのほうに丸印、赤丸で囲んでいるところ 3 個、日常生活における歩数というのを追加して資料として出させていただきます。

あと冊子全般に関することですが、元行の記載、平成という記載について、天皇陛下の退位が予定されていることから平成 31 年度以降元号が変更されることが考えられ、まだ新元号が確定していないことと時期もまだわかっておりませんので、年度の表記についてはそのまま平成のままで表記したいと思っております。また、今回訂正部分を赤字で直しておりますが、実際印刷にかけるときにはそこを黒字のほうで印刷していきたいと思っております。

事務局からは以上です。

ありがとうございました。

それでは、事務局からただいまの御説明していただきましたので、続いて(2)

会長

<p>平野委員 会長 平野委員</p>	<p>の意見交換のほうに移りたいと思います。</p> <p>全体を通してでも構いませんし、御質問いただいた委員の方々、回答いただいたわけですが、それに関してでもいいですが、ここで御協議していただければと思います。何かありましたら、よろしくお願いします。</p> <p>いいですか。</p> <p>平野委員さん。</p> <p>健康づくり計画のところですが、この目標値が数値を入れにくく、多分減らすとか増やすとかという言葉になっていると思いますが、中間評価のところでは数値が入っています。ということは、目標が何らかの形であると思います。それを入れるか、入れられないのならば現状値でも入れられると、どういうふうに推移しているのかと中間評価したときにわかりやすいですね。そういうことで、改善修正をお願いしたいと思います。</p>
<p>会長 平野委員</p>	<p>中間評価が入ってないところですかね。</p> <p>いえ、目標値が数値で入ってないところです。だから、例えば 19 ページの 35 年のところの目標値ですが、減らすという言葉が出てます。ですけど、中間評価のところでは数値が出ています。</p>
<p>会長 平野委員 会長</p>	<p>その中間評価の数値から、減らすという具体的に書けということですかね。目標値の中の目標値があると思うんですね。</p> <p>うん。多分これは中間評価のその数値よりも減らすという意味だと思うんですけども、その減らすだけではわかりにくいからということですか。</p>
<p>平野委員</p>	<p>はい、そういうことです。何を基準にしたのかというのはわからないので、例えばこの例です。</p>
<p>会長 平野委員 会長</p>	<p>そうですね。この辺どうですか。少し御説明とか、どこかに。</p> <p>23 ページにもあります。</p> <p>ああ、なるほど。これは中間評価の数値から減らすということですかね。最初の要はその策定時の数値から減らすのか、中間評価の数値から減らすのか、そのところを少し明確にしたほうがいいのではないかということだと思いますけども。</p>
<p>事務局</p>	<p>目標値のところ平成 35 年の目標値というところで、増やすとか減らすとかという表記がわかりにくいところの御質問、御提案でございますが、策定時と中間評価の指標の横に目標値があるというところもちょっとわかりにくかったのかなと思いますが、中間評価よりも増える方向で取り組みをしていくというところではあります。</p> <p>今回の第 2 次の健康づくり計画ですが、この計画は 11 年計画になっております。前期のほうは、今年度をもちまして前期が終了します。この前期の計画の策定時の目標値がございます。そのときに平成 35 年度が最終目標年度になりますが、最終目標の指標でこの表記が新しかったのかということ判断が難しいのですが、この時点で減らすといった目標値を掲げておりまして、今回はそ</p>

	<p>の途中中間評価とですので、この目標値を同じように減らしていくべきだということ減らすというような表記にしております。この今言った御意見につきましては、本当に申しわけございませんが、この計画は35年度をもって一旦計画のほうが終わりと、次回の計画は、第2次の計画を踏まえて策定していくこととなっております。このときには前期のときに一番最初の計画の出発点で慎重に最終の目標値というのを決めて計画のほう進めていくようにしなければならぬかと考えております。そういったことで、今回このような表記で大変申しわけありませんが、よろしく願いいたします。</p>
平野委員	<p>以上でございます。</p>
会長	<p>そしたら、すみません。</p>
平野委員	<p>はい、どうぞ。</p>
会長	<p>そしたら、減らすという言葉を残して括弧書きで目標値を入れるようにしてください。それだったら差し支えないと思いますので。</p>
会長	<p>その目標値ってどこまで増やすかということですか、その具体的な数値をとということですよ。</p>
平野委員	<p>そうですね。5年間このままだと、毎回この質問出てくると思います。</p>
会長	<p>その辺はなかなか根拠というところがどれくらい増やすことができるのかというのは難しいところでもあるのですが、入れられるところと少し難しく入れにくいところもあるとは思いますが、その辺事務局サイドはいかがですか。</p>
荒木委員	<p>私、中予保健所健康増進課の荒木と申します。お世話になります。</p>
	<p>伊予市健康づくり計画の策定に当たりましては、私のほうも作業部会のほうに1度参加させていただきまして数値等の評価について一緒に検討させていただきましたので、私のほうからも一言申し上げますと、やはりその愛媛県の計画につきましてもちゃんと数値目標を立ててこの数値に向けて努力するということになっております。それが本当に望ましい姿だと思いますし、そういう意味で指標のほうもちゃんと安定して数字が計算できて、そして今後も同じ指標が使えることで検討をさせていただいたところでございます。ですから、今後こういった観点で数値目標を入れられるところは入れることで、私どもも伊予市さんとともに考えてまいりたいと思います。</p>
川口委員	<p>ちょっといいですか。</p>
会長	<p>川口委員さん、どうぞ。</p>
川口委員	<p>商工会議所の川口です。</p>
	<p>今の議論を聞いていますと、つまり市のほうの御説明で例えば19ページの目標値、平成35年というのは当初の段階で決めているから変えられないと、こういうことでよろしいでしょうか、御説明の仕方だとしても。つまり、当初作成したときにもう減らすということを明記しておくから、これを守らなければならないという理解でよろしいのでしょうか。</p>

<p>会長 川口委員 事務局</p>	<p>どうでしょうか。これはそうですね、これは算定時に、たしか書いたものですよね。</p> <p>算出時の目標値を、これに基づいて具体的な数字を入れんといかん。</p> <p>すみません。目標値は別紙のほうに変更したものや、目標が達成されたというのが中間評価であったものについては、また新たな目標値を設定させていただいているところがございます。また、もう一度、目標値、現在の表記につきましては事務局でも見直していきたいと考えます。また、目標値でできるだけ数値で出せるところは出すという考え方で、中予保健所の御支援もいただきながら検討させていただきたいと思います。</p>
<p>会長 川口委員</p>	<p>川口委員さん、どうぞ。</p> <p>すみません。基本的に私思うんですけれども、目標達成されたものについては新たな目標をつくるということであれば、この平野委員さんが言われますように目標値としているのに減らすという言い方はやっぱりおかしいと思うんですよ。目標値ですから、値を出すべきだと思うんですよね、目標としては。そういう意味で、私は平野さんの御意見に賛成で、当初つくったこの計画で減らすと書いているんだけど、今回の見直しで35年度の目標をこういうふうに直しますということ具体的な数値を上げて、上げられないのであれば別ですけどもね、極力数値、目標ですから数値を上げるべきだと、私も平野さんの御意見に賛成をしたいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>例えば19ページの脳血管疾患のSMRを減らすという表示になっていますけれども、策定時から中間評価で少し増えているから、せめて中間評価の数値よりは減らすとか、あるいはその策定時のところまで減らすのを目標にするのか、そのあたりをちょっと個別に見ていければいいかなと思います。そういった対応でよろしいでしょうか。</p>
<p>浅山委員</p>	<p>じゃ、浅山委員さんどうぞ。</p> <p>失礼します。この目標値という言い方をすると、やはりかたいであろうと思うんです。減らすというのは、やはり目標であろうと思うんですね。だから、ここには目標というものと目標値というものが混在してるんだろう。だから、例えば19ページのところで数値が入っているところ何とか以下を目指すとかにするというような言い方だったら目標になると思うのですが、目標値と言われるとやっぱり数値があるべきだろうなど、やっぱり言葉じゃなかろうかなというふうに気持ちとしては思います。</p>
<p>会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。その上で、もう一度見直して、どこから減らすのか増やすのかというところを少し明らかにしていただけると、もう少し35年のときに見直したときに評価しやすいのではないかなというふうに。</p> <p>はい、貴重な御意見ありがとうございます。ほかに何かございませんでしょうか。</p> <p>はい、じゃ向井委員さん、どうぞ。</p>

向井委員

栄養関係のほうを少し勉強したのですが、44 ページ、43 の一番頭の上のところに(5)で栄養、食生活、身体活動と云々っております。その右ページに取り組みが個人、地域、共生とありまして、58 ページも同じく地域での取り組み、行政の取り組みが載っていますが、前々から私の気持ちの中でありまして申し上げてるんですけど、今回も言わせていただいたらと思うんですが、それぞれの取り組みをよくやってらっしゃるし、努力してらっしゃるんですけども、1 つだけ希望としてお願いしたいのは体系的な教育、教育までいかなくても健康診断の後、一人一人いろんなことその人に応じて教えてあげたりするのは大事なことですし、料理教室でこういう食べ物を使ってこんなふうな料理しましょう、そういうことも大事なことですけど、体系的に基礎的な大学で教えても栄養学の本当に基礎的なところぐらいは全部通して授業が受けられる、大体一回一回切れますから、内容が、受けるほうは飛んでも大丈夫ですので、これは個人では無理ですので、行政のほうからそういう先生方を招いて半年なり1 年なりの継続した勉強ができる教室のようなものをつくっていただいたらと思います。

私の知っている病院は、先生方がもう診察室で患者さんが来るのを待ってたんではいかんと、出前講座に行かないといけないということで、さらに松山近辺の西のほうの病院ですけど、そちらの地域の公民館のような場所で地域の人たちに糖尿病教室から肝臓病教室から、病気にならないためにはこんなことしましょう、ああいうふうなことしましょうってお医者さんやリハビリの先生から栄養士からがみんなが地域に出ていってるんですね。大学のほうも栄養学の先生は呼んでもったら行きたいって、呼んでもらわないことには行けないと言われている先生方も何人もいらっしゃるんで、是非地域の住民のために体系的な教室を開いていただける方向を少し考えていただけたらと思います。よろしくお願いします。

会長

はい、そのあたり地域の取り組みというところで少し系統立った講演会のようなものを開催できないかという御意見だと思いますけども、いかがでしょうか。今いろいろと講演会等はたくさん単発で行っているとは思いますが、そのあたりいかがでしょうか。

事務局

市では、今向井委員さんが言われたような体系的な栄養学を半年なりなんなりのコースでというような教室は保健センターのほうではしておりませんが、それよりももっと基礎的な保健栄養学級という健康づくりや食育栄養などの改善のための基本的な栄養といってもたんぱく質とかエネルギーとか、それぐらいの言葉が出てくるぐらいの教室は開いております。今向井委員さんが言われたような、もうちょっとそれより上の栄養学について講演会とか、そういったことを開いたらどうかという意見でしたので、市のほうでも講演会とか健康づくり、食育の講演会をするときにテーマとか講師の方をどなたにしようかと決めるときに、今の言っていただいたことを参考に、また考えていきたいと

<p>会長</p>	<p>思います。</p> <p>その辺は、計画の中ではどのあたりになりますかね。教育みたいなところは少し計画の中の取り組みとしては記載というか。</p>
<p>事務局</p>	<p>もし記載するとしたら、41 ページ、42 ページのあたりになると思いますが、行政の取り組み、ちょっとそこまで詳しくは書いてないですが、講演会を学校で開くとか、保健センターの健康教室で知識を普及といったあたりのところで今言われた栄養学に関することをテーマにして行うというような機会はあると思います。</p>
<p>会長</p>	<p>そうですね。42 ページの行政の取り組みはそういったところで少し教育を与えるような、講習会というのは書きますけど、それより専門的な話を聞けるような場をつくるというのも大事なかなと思います。また、追加よろしく願いいたします。</p>
<p>西田委員 会長</p>	<p>ほかに何か御意見ないでしょうか。</p> <p>今の関連で。</p> <p>西田委員さん、どうぞ。</p>
<p>西田委員</p>	<p>今のちょっと関連ですけれども、私、いよし健康づくりの会の会長をさせていただいていますが、健康づくりの会の会員は、300 人ぐらいいいますけれども、その中で学校、地域で先ほども言われました栄養に関するとか健康に関する基本的な講座とか、勉強会も年に 2 回ずつ各中山、双海、郡中とか北山とか分けて行ったり伊予市全体で講習会もおこなっていますので、そういう機会も皆さんの勉強する機会として会員だけでなく、いろんな方に参加していただけるように、今後も行っていきたいと思います。今の意見、参考にさせていただきます。また、いろんな意見を聞きながら、講師の先生と一緒に勉強会を聞いたり、地域の方も含めて全員でやれるような方法も考えていきたいと思っております。</p>
<p>会長</p>	<p>では、今後ともよろしく願いいたします。</p> <p>ほかに何か御意見等ないでしょうか。 はい、どうぞ、小畑委員さん。</p>
<p>小畑委員</p>	<p>すみません。大変恥を忍んで申し上げますが、57 ページの学校給食における伊予市産の地場産品を使用する割合が今回の目標値も 30%と出ていますが、これ一番最初の目標立てたときに学校の立場の代表の者が 30%はなかなか困難であるということをお願いしたんですけども、何かもう無理こやりこ 30%に決めたというんですけども、先ほども説明しましたが、頑張って 15%に今やっというところで県の計画で第 2 次の県内産の使用率が 35%、次の 35 年度までに県内産を 40%にしましょうというのに、伊予市産を 30%にしましょうという私たちにとってはステップが高過ぎて無理なんですけど、今さらそのステップを下げてくださいというのは無理でしょうか。何かこの場ですから言うことが違うかも知れませんが、恥を忍んでお尋ねします。</p> <p>大事なことだと思いますので、無理な目標を掲げてもしようがないところも</p>

会長	ありますから、このあたりどうでしょうか。
事務局	<p>計画の案をつくったときに、こちらの指標の目標値についても、第1次計画と全く同じで、30%以上という目標値で記入したものを学校教育課、学校給食センターの方にも冊子は送って確認していただいたのですが、今小畑委員さんよりちょっと目標値が高過ぎるのではないかという御意見をいただいたので、具体的には目標値としてどのくらいが望ましいと思われませんか。</p>
会長	ここも、さっきのように増やすのか。
小畑委員	この中間で1.7%ぐらい上がったということを考えると、どうでしょう。頑張って15が17、18、余りにもあれなんですけど。
会長	5年後ですか。
小畑委員	5年後ですね、でもこれも5年後でやっと1.5%上がったので、さっきも申しましたように組織づくりができてない限りには八百屋さんが3つと、それから今おひさま市ってJAがかんでくれて4つのところで入札して伊予市産でできるだけ入れてくださいねという現状でやっと15%いってるような、去年だったら本当にキュウリがなくなって探して、宮崎とかそういうところから集めて、となると市内産が8%になったりとかということもある中での目標なので、私言えません。
事務局	今お話を伺っていると、30%というのはちょっと目標値としてどうかという御意見でしたので18%、それぐらいということで20%ぐらいでどうかと、事務局のほうでまた検討したいと思います。
事務局	<p>よろしいでしょうか。伊予市の今回つくる計画ですが、この上位法としまして伊予市総合計画というのがございます。こちらの計画の中で、学校教育環境の整備充実の中に今言った安全・安心で魅力的な学校給食づくりの必要性というところはございます。この成果目標、指標として30%という数値が、ひとり歩きしているところがございます。この目標値を決めるときに十分な、私もこの担当していたんですけど、十分に論議をなされないまま、これまで30でずっと昔から来ているというところで、この30%という数字を控えるにはなかなか時間がなかったというところがございます。今後、私も学校給食のこの地産地消のことは行く行く理解しておりますので、次回の総合計画で、この見直しのときに目標数値というのをやはり変えていただかなければ、今回の計画で30%というところを20%という数字にするということや、控えるということはちょっと現課の方では難しいかなと考えております。</p>
事務局	<p>そういった中で、学校教育課の管轄になろうかと思いますが、こういった地産地消率ですね、これについては今学校給食センターに移行しましてやっと1年というところで今後数字がやはりいろんな努力をしてどこまで行けるかなというところを見きわめながら、その数値を持ってくるべきかと思っておりますので、こちらのほうから学校教育課のほうには御提言という形をさせていただきまして今回は6年という計画なんですけど、この30%という目標値は変更が</p>

	<p>難しいと考えておりますので、了解いただいたらと思います。小畑先生、すみません。</p>
<p>会長</p>	<p>その辺数値を具体的にどうするかはまた検討していただいて、またよその市町の状況なんかも鑑みながら。</p>
	<p>はい、どうぞ、西田委員。</p>
<p>西田委員</p>	<p>すみません。ちょっと健康の会には少しはずれていくかと思えますけど、市全体で考えていかないといけない話だと思うんですが、野菜とかを地産でやっていくためにはどういうルートでどういうふうに給食センターに入れていくかという手法を検討していただいて、例えばちょっと品質の悪いものでも加工をすることによって食べれるが、商品としては出せれないというのもうまく利用できると思えますので、ここだけでなくて市全体でのやり方、供給の仕方を検討していただければ結構近づける数字にはなるのではないかなと思います。市のほうで関係の機関での検討事項の中に入れていただければと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。そのあたりも含めて、これから具体的にどうするかというのはまた別なところでの話し合いになるんだと思いますが、そういったやり方もまたそのうち将来的には考えないといけないことだと思います。</p>
	<p>はい、よくよく見るといろんな数値がありますので、ちょっと余りじっくり見れてないところがありますが、余り自分の首を絞めるような目標値は余りよくないとは思えますので、その辺も、もう一度見直していただけるといいかなとは思えます。</p>
	<p>あとは、いかがでしょうか。</p>
<p>平野委員</p>	<p>いいですか。</p>
<p>会長</p>	<p>はい、平野委員さん、どうぞ。</p>
<p>平野委員</p>	<p>本田さんの意見で出ていました一人一人の取り組みの年代別は要らないのかということ改めて見ていましたところ、48ページを見ていただけますか。一人一人取り組みの妊娠期に代表しているのは右側上2つだと思うんですね。だけど、その下の幼年期から青年期の間はこれ青年期ですね、ここはこうって右側のアルコールに該当するというふうにされていますので、上側もそうしたほうが多分わかりやすいんだろうなと、その下の青年期のところは囲ってない3つですね、該当するのかなと何となく想像するんですけど、これはそういうふうにしたほうが見やすいなと、そういうことで年代別を削除できないというふうに言われたんだろうなと思うんですが、一方46ページ見ますとその辺の組み合わせが全くわからないですね。だから、この辺わかるようにちょっとかぎ括弧に入れていったほうがいいんじゃないのかなと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>はい、そこの表記の仕方ですね。一番左の列のライフステージのところと取り組みをするところに括弧があったりなかったりしているので、確かにわかりにくくなっていますね。48ページの下のほうは、そうですね。</p>

事務局	<p>すみません。平野委員さんの言われたとおり、どこからどこまでがどの年代というのがわかりづらいので、またここがわかるように修正して訂正したものをまたお送りさせていただいたと思います。ありがとうございました。</p>
会長	<p>似たような箇所が全体的にありますので、もう一度、見直していただいて左と右がどことどこが対応するかがちょっと明確にしてもらいたいなと思います。</p> <p>ほかに御意見ないでしょうか。</p> <p>徳田委員さん、どうぞ。</p>
徳田委員	<p>すみません。伊予市青年農業者協議会徳田です。</p> <p>先ほど小畑先生のほうから、大変わかりやすい私の意見について御説明していただきました。それについて意見とか、そういうことではないんですけども、今僕が考えていることをちょっとお話しさせていただければと思いますけど、うちには中2の娘と、あと小学校4年生の息子がおりまして、今回のことに関して給食についてどう思ってるかというのを家で話をして、おいしくないという言葉が本当に多く出てきて、いつも毎日毎日一生懸命給食をつくっていただいている方に本当に何て失礼な子供なんだと思ったんですけども、話を聞いてみると何か取り合わせについてすごく言っておりまして、御飯とパンと一緒に出てるときがあってちょっとどうやって食べていいかとか、あと具体的な例を出してしまっても大変申しわけないんですけども、例えば今日の献立の白菜とアマナツミカンのサラダなんか野菜と果物が一緒にまぜてある、食べづらいとか、あと何か食パンがパサパサで無理なんだろうけど焼いて食べたりなんかもう少し食べやすい食べ方をしたいとか、すごくわがままと言えばわがままですが、例えば御飯と牛乳の取り合わせ、言われてみればすごく子供にとっては食べづらいのかなとか、おいしくないという言葉を使わせないということも食育のかなと私も青年協議会のほうで幼稚園の方、子供たち、親御さんと毎年食育をやっておりまして、毎回毎回どうやって食育の会をどういう内容、メニューでやったら子供たちのためになっていくのかということをついつも悩んで毎年毎年行っていて、本+当に残念ながらおいしくないと感じていることは事実なので本当にその事実を小学校、中学校という大事な時期の1日の3回の食事のうち1回を給食という食事をとっているわけで、うちの子たちだけではない意見、その取り合わせに関して言うと何かそういうことらしいので、そこが物すごく子供が感じているということは事実なので、そこら辺のことがもう少し改善していけば、つくっている方も子供たちもうれしい結果になるのではないかと感じております。私もその食育というものに関して、本当に毎年やっていて、自分の中で食育とはこういうものだみたいな正解なんて全く出てなくて、すごく生意気なことなんですけれども、子供が食ということに対してもっと感謝の気持ちを持ちつつ、おいしく心豊かに食事をしていけたらいいなと、今回子供に意見を聞いて思いました。どなたかに対する質問とか意見</p>

<p>会長</p>	<p>とかではなくて、私が思っていることでございます。</p> <p>はい、以上です。</p> <p>はい、ありがとうございました。最近ニュースで残食の多い学校があるというニュースでありましたけれども、子供の気持ちを酌み上げるといような仕組みがあるのかどうか、私もわかりませんが、恐らく徳田委員さんの御家庭が非常においしいものを出されていて、よく御家族で話をされているという意味では非常にうらやましいなと思ったんですけれども、どうですかね。</p> <p>確かに今食事に関しては非常に子供たちの意識が何か少し弱くなっているというのはよく聞くところで、学校給食というのは非常に大事な1日の食事の中では結構大したカロリー的にも位置を占めるという話かなという気がします。そこで残したりするのは非常に気の毒だし、もったいないし、不幸なことだろうとは思いますが、是非楽しい給食にできるような、それをこの計画の中に取り込むというのは難しいのかもしれませんが、どこかでそういう声を拾い上げるようなところがあればいいなというふうに思いました。大人が検索なんかはあるんですかね、今。ありますよね。</p>
<p>小畑委員</p>	<p>今の御意見に対してちょっと弁明させていただきたいと思うんですが、御飯とパンと一緒に出るということは、この献立表を今月の分お配りしているのもちょっと字が小さくて見にくいかもしれませんが、ホームページにもございますので伊予市のホームページを開いてもらって給食献立とか給食センターとかって入れてもらったら献立表のところに飛んでまいりますので見ていただいたらわかるんですが、御飯とパンの組み合わせというのはないんです。だから、ちょっとそこは誤解なんじゃないかなと思うんですけど、しかも食パンがパサパサというのですが、例えば砂糖がたくさん入っていると食パンってしっとりするんですが、給食の場合は文科で決められていて砂糖が4%というふうになっております。</p> <p>ただし、昨今の異物混入のことがありますので、昨年度からパンは全てナイロン袋に包装されているので、子供たちが食べるときにパサパサということは余りないんですが、もしパサパサと感ずるのだったらちょっと砂糖が少ないのでおうちで食べているようなしっとり系のようなことはないというところもあるかと思えます。</p> <p>御飯と牛乳の取り合わせについては、新潟県で牛乳やめるということが実際ありましたが、結局子供たちの成長に必要なカルシウムとかたんぱく質とか、それも限られた費用の中での栄養、本市の場合は1食 250 円ですが、そういう中で牛乳の果たす役割というのは大きくて、これはちょっとやっぱり成長期の子供の食事というところで外せないというところがありますので、そういう点について御理解いただいて、私たちとしてはよりおいしくなるように今4人の栄養士が献立を検討しながら和食は和食、中華は中華という組み合わせで変な組み合わせにならないようにということを努力はしているんですけれど</p>

<p>会長 浅山委員</p>	<p>も、今後また一層努力してまいりたいと思いますので、全てのみんながおいしいというのはなかなか難しいと思います。果物が入っているサラダを嫌う子もいれば、次あれがいつ出るのって楽しみにしてくれている子もあるので、そこは果物が苦手な子とか好きな子とかの嗜好の差というものもあるのではないかと思いますので、その辺また私たちが謙虚な気持ちになって子供たちにアンケートをとるなどしてそういう状況をつかんでまいりたいと思いますので、なおまた献立表なんかも御家庭に冷蔵庫等に張っていただいているかと思いますので、そういうところも見ていただいて組み合わせについても新たな目で見ただけいたらなと思いますので、どうかよろしく願いいたします。</p> <p>浅山委員さん、どうぞ。</p>
<p>会長</p>	<p>私も学校に勤務している者なので、給食いただいています。その給食については、今小畑先生がおっしゃられたように大変工夫をなされて出していただけて提供していただいていると思っています。当然好き嫌いもあるんでしょうけれども、本校中学生ですので、残食はもうほとんどないというふうに聞いています。そして、味つけも少しでも子供たちの成長にというふうなことで病気に云々もあるんでしょうけれども薄味にもしてもらったりとか、いろんなことに気をつけてもらっている気もしますし、ふだん自分の家庭ではなかなか食べられないようなメニューなども出してもらおうということである部分食育にかかわっていると思いますし、給食中に放送等を使って献立についてはこういうことなんですよとか、そういうようなことも放送する中で地産地消のことであったり旬のものはこれであったりというようなことも話をできていますので、そういう面では学校給食というのは給食センターと学校とが協力しながら子供たちに食育という部分では十分だとは言いませんけれども、頑張っているのではないかなというふうに思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。徳田委員さん、よろしいでしょうか。</p> <p>あとほかにないでしょうか。そろそろ時間が迫ってまいりましたけれども。</p> <p>はい、それではほかに御意見がないようですので、以上をもちまして議事進行のほうを終わらせていただきます。非常に長い時間でしたが、御協力ありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、あと事務局のほうに任せます。お願いします。</p> <p>斉藤会長、ありがとうございました。</p> <p>最後に、その他になりますが、事務局より今後の予定について説明をさせていただきます。</p> <p>本日委員の皆様からいただきました御意見等をもとに修正となりました計画立案を再度委員の皆様へ郵送し確認をしていただくこととなります。訂正箇所また提案事項などがあれば前回と同じように提案書を同封しておきますので、同様にメール、ファクスで結構ですので健康増進課までお願いできればと思っております。この提案をもとに、今度は最終案になりますが、作成しまし</p>

て第3回目の協議会で皆様の承認をいただきたいと考えております。

この時期になります。駆け足になるんですけど、12月の下旬までに第3回目の会合を開きたいと思っております。したがって、最終案につきましても十分に皆様がお目通しできる時間というのをもちたいと思っております。その後3回目の承認をいただいた後、市長答申、庁議、意見公募を行いまして来年3月に策定を行いたいと考えております。

事務局からは以上でございます。

その他、委員さんのほうからございませんでしょうか。

なければ、以上をもちまして第2回健康づくり・食育推進協議会のほうを終わらせていただきます。長時間にわたって御審議どうもありがとうございます。次回もよろしくお願いいたします。

午後3時30分 閉会